



金沢大学長

和田隆志

2024年に発生した能登半島地震及び奥能登豪雨により亡くなられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された全ての皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災された皆様の健康と安全のご回復、ならびに一日も早い復旧・復興・再建を心よりお祈り申し上げます。

金沢大学は、発災後に「能登里山里海未来創造センター」を設置しました。本学の英知を集結させ、「地震・災害に強く安全・安心で、だれもが住みよい、文化薫る地域・まちづくりとひとづくり」に寄与し、中長期的視点から、教育、医療、文化、産業復興等を強力に推進してまいります。

現代社会は、気候変動などの環境問題、食糧・飢餓、健康・感染症など多くの課題を抱えています。これらの諸課題に対し、大学に求められる役割は益々大きくなっています。

2022年5月に金沢大学未来ビジョン『志』を公表してから約3年が経ちました。未来ビジョン『志』は、オール金沢大学で、未来の課題を探究し克服する知恵「未来知」により社会に貢献することを目指しています。

その活動拠点となる「未来知実証センター棟」が2025年6月に本格稼働を開始しました。環境負荷低減や創造的復興に資する研究も含め、基礎研究・融合研究の高度化、社会実装の加速化を推進します。

金沢大学は環境方針のなかで6つの基本方針を定めています。各基本方針にもとづき、環境基本計画に定められた行動目標を達成すべく、環境に配慮した活動に取り組んでおります。2022年3月に策定した、「金沢大学カーボンニュートラルに向けた取組計画」において、その姿勢をより明確にしました。さらにロードマップの見直しを図り、研究・教育等の具体的な成果や目標を充実させた『取組計画 2023 改訂版』を2024年6月に策定・公表しました。2025年6月には、前年度の取り組みの成果をまとめた「Progress Report vol.2『e:COReal』2025」を発行いたしました。クリーンエネルギーや気候変動等、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に寄与しながら、施設、教育、研究・開発、社会共創を発展させる、社会の先導モデルとなることを目指します。

本報告書をご覧いただき、金沢大学の取り組みへご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。